

さかいでこう

坂出港（坂出市管理重要港湾）

坂出港は、香川県海域のほぼ中央に位置し、古くから瀬戸内海における海上交通の要衝として、重要な役割を果たしてきました。

本港は、約 190 年前（文政 7 年～12 年）坂出港付近の塩田築造とともに開設され、現在の西運河及び沖湛甫を中心に、主として塩田関係の輸送に利用されていました。その後、本港本来の優れた立地条件により、和船の往来も頻繁で備讃瀬戸における重要な港湾となり、中国・阪神・九州さらに北海道方面との交易にも利用されるようになりました。



坂出港の港湾整備は、明治 33 年の港湾実態調査に始まり、大正 5 年より 5 箇年計画をもって、まず内港運河の浚渫工事から着手されました。その後、昭和 3 年より東アジア圏内の貿易を目標として、本格的な第 1 期改修工事に着手し、東西埋立地 31.1 万㎡、水深 7m、西岸壁延長 274m、港内泊地 21 万㎡の浚渫などが行われ、昭和 12 年より第 2 期改修工事が着手され、近代的港湾の基礎が築かれました。昭和 23 年 1 月には開港の指定を受け、昭和 26 年 9 月には重要港湾に格付けされ、続いて昭和 28 年 7 月には坂出市が港湾管理者として認可されました。

昭和 27 年 1 月、瀬戸内海一貫航路および坂出航路の安全宣言が行われるに至り、益々港湾活動は活発となりました。さらに、大型船も続々と入港するようになり、昭和 32 年度には中央突堤東側に水深 10m 岸壁 1 バース、北側に水深 6m 岸壁 1 バースの建設に着手し、昭和 37 年度に完成いたしました。

また、昭和 40 年 4 月には県営番の州第 1 期公有水面埋立（434.9ha）も免許され直ちに同埋立てに着手、さらに、昭和 44 年 5 月には第 2 期公有水面埋立（150.8ha）が免許、番の州埋立ては順調に進捗し、昭和 42 年には川崎重工業(株)が操業を開始し、続いて三菱化学(株)、四国電力(株)、コスモ石油(株)、吉田工業(株)等、大型の近代化企業が相次いで立地操業し、香川県工業開発の中核として本港は飛躍的に発展しました。これに伴い、入港船舶の大型化と取扱貨物量の増大等に対応する必要から、本港の新たな拠点づくりとして、林田地区に昭和 43 年度より水深 4.5m 岸壁 2 バース、水深 5.5m 岸壁 3 バース、水深 7.5m 岸壁 2 バース、水深 12m 岸壁 1 バース、またこれに対応する航路・泊地 87.1 万㎡の浚渫をそれぞれ着手し、昭和 56 年度に完成を図り、順次企業立地が進んでいます。

さらに、「世紀の大事業」といわれる瀬戸大橋は、昭和 53 年 10 月に着工され、昭和 63 年 4 月に完成し、それと接続する四国内の高速道路網も順次整備されています。また、物流機能の充実を図るために、阿河浜地区に水深 7.5m 岸壁 1 バース、またこれに対応する泊地 1 万㎡の浚渫をそれぞれ平成 2 年度に完成すると共に、松ヶ浦地区における水深 5 m 岸壁 2 バースが平成 7 年度に完成しました。

平成 26 年 4 月には西ふ頭地区において、水深 7.5m の耐震強化岸壁が供用開始され、大規模地震時の緊急輸送拠点としての役割も担っています。

これらより、海陸の結節点として四国の玄関港となり、さらに大きく飛躍するものと期待されています

